

教育課程編成委員会
平成30年度 第1回委員会 議事録

1. 日時および場所

日時：平成30年10月16（水）18：00～20：00

場所：修成建設専門学校 129教室

2. 出席者

田中義久、西濱浩次、小松原学、大上哲男、辻裕樹、村橋昭洋、小島章、佐藤栄一、森本和真、大槻憲章

山下裕貴、堤下隆司、谷川博康、増田和浩、荒木伸輔、見邨佳朗、釜友知與子

中島良明、野瀬孝男、中安哲男、明石祥子、亀井哲男

以上22名

3. 配布資料

資料1-1：平成30年度第1回委員会 議事次第

資料1-2：出席予定委員一覧表

資料1-3：平成29年度第2回委員会 議事録（案）

資料1-4：話題提供者からの資料（別添）

4. 議事次第

(1) 開会挨拶

堤下校長から開会挨拶に続き、教育課程編成委員会の概要説明・卒業展開催と審査員依頼の謝辞があった。

山下理事長から学園の現状について報告があった。

(2) 議事内容説明

堤下校長から議事内容について説明が行われた。

1) 平成29年度第2回委員会 議事録（案）の確認

野瀬委員から前回議事録の説明があり、異議なく承認された。

2) 平成30年度全学科課程中間報告

■建築学科（昼・夜・デュアルシステム科）・・・増田委員

在籍数（昼）1年205名6クラス・2年203名7クラス、（夜）1年28名・2年19名。

従来のカリキュラムの設計・施工に加えて積算分野を強化している。その試みとして、建築積算士補の試験を受験させた。昼夜合わせて216名が受験し151名の合格（約70%の合格率）となった。資格取得についての認識を高め、福祉住環境コーディネーター検定・宅地建物取引士・2級建築施工管理技士・カラーコーディネーター検定に取り組んでいる。将来の二級建築士試験に向け準備もしている。

就職に向けてインターンシップを就職するまでに一度は全員が経験することを目標としている。

■建築CGデザイン学科・・・見邨委員

在籍数（昼） 1年 28名・2年 18名。

設計の手法も推移している中、Auto CADの 2次元から4次元のRevitを活用し、1年から2年へBIMを段階的に学習している。

また、デジタル的な表現が目的ではなく、アナログで空間をとらえ、デジタルで表現できるようにパース検定にも取り組んでいる。

■空間デザイン学科・・・見邨委員

在籍数（昼） 1年 48名2クラス・2年 58名2クラス。

学生が主体的に「考える力・作る力・伝える力」を養成する教育を軸に座学・演習という形で取り組んでいる。就職の職種が多岐に渡っていることから、建築をベースにしなから、設計総論において、その道のプロのスペシャリストを招き、各分野の面白さや難しさなどを体感させている（全30回）。

■専科2級建築士科・・・見邨委員

現在80名が在籍しており、二級建築士試験の学科・製図の試験が終わり12/6の結果発表待ちである。

学科試験の合格率は専科規定出席と規定宿題提出率を満たした者の合格率は89.86%で高合格率を得ることができた。

今年度スタートにあたり人員・環境・設備面で充実を図った。

■住環境リノベーション学科・・・中島委員

在籍数（昼） 1年 19名・2年 34名。

施工管理のプロを養成する学科である。学科の大きな目標の2級建築施工管理技士の学科試験の前期試験（6月）33名受験し12名合格。後期試験（11月）に向け現在勉強中で、最終100%を目指している。

1年生の9月に合宿で行く富士研修センターでの1週間実技合宿（足場、型枠）で、後期の授業態度に変化（目の色が変わるなど）が見られた。

キャタピラ講習会（技能講習・特別教育）は2年間で計9個の取得予定で、2年生は高所作業技能講習を残すのみとなっている。

宅地建物取引士試験を目指し、一部の学生が猛勉強中である。

大工希望者が2年生で12名（そのうち宮大工3名内定、大工6名内定）。1年生で19名そのうち大工希望者が8名であることから3級大工技能士の基礎講習等ができるよう進めている。

■土木工学科、建設エンジニア学科・・・野瀬委員

土木工. 学科在籍数（昼） 1年 29名・2年 28名。

建設エンジニア学科在籍数（昼） 1年 16名・2年 16名。

- ・就職（2年生）はほぼ決定している。
- ・インターンシップ（1年生）はほぼ100%参加した。
- ・建設エンジニア学科は、卒業までに安全教育、特別教育、技能講習を合わせて10種目の資格取得を目指す。
 - ・測量士補の試験対策を実施し、2級土木施工管理技術検定は、10月に実施される試験に向け、夏に集中講義を実施した。
 - ・測量の授業等の中にドローンの内容を取り入れるため、現在準備を進めている。

■ガーデンデザイン学科・・・中安委員

- ・本年度も企業、行政、業界関係団体、近隣地域との連携した実習と演習、庭・公園の設計分析の見学を柱に授業展開をしている。
- ・実習につきましては、天候に左右され実施できていない部分もあるため、後期に取り戻す努力をしている。
- ・職業としての造園を理解できるように、科目間の連携に力を入れている。
- ・実務（設計→デザイン→積算→プレゼン→契約→施工→完成→管理）の順番とは逆に覚えさせたい。2年間という限られた時間なので同時に進めているのが現状である。
- ・インターンシップ（1年生）は全員参加した。
- ・2級造園施工管理技士の試験（11月）に向け2年生全員の合格を目指す（昨年は81%）。

3) 「卒業展 2019」の審査方法について

今年度実施される「卒業展 2019」は、平成 31 年 2 月 16 日、17 日の両日「修成堀江ラボ」にて開催されます。審査は昨年同様「教育課程編成委員会」の委員の先生方 16 名に委託し、西濱浩次委員（本校教育顧問）が委員長に就任。審査日は平成 31 年 1 月 31 日（木）～2月 2 日（土）までの平日 19 時まで、最終日は 15 時まで、2 月 2 日（土）15 時から最終審査が行われる。

4) 話題提供

株式会社 コンパス建築工房 代表取締役 西濱浩次委員より

西濱委員が手がけられた実務事例をあげながら「魅力の再生」についてパワーポイントにて興味深くご紹介いただいた。

「造る時代から・残す時代へ」自分たちの都合のよい形にスクラップ&ビルドする時代は終わり、建築ストックの価値を再度見直さないといけない時代となってきた。今すでにある空間やモノの質をどれだけ転換できるのか、また長く使われてきた時間を付加した魅力を引き出させることができるかが、これからの時代は必要であると説明があった。

5) グループ討議

- A) 建築グループ・・・・・・司会：見邨 記録：中島、釜友
田中、西濱、辻、村橋、佐藤
山下、谷川、増田、見邨、釜友、中島 以上 11 名

見邨委員から

- ①「修成の学生又は若者の魅力についてどう感じておられるか？」とあり外部委員からの意見を求めた。
- ・個性のない学生が目立ち、大人しい若者が多い。
 - ・今の学生は、人それぞれが持っている性質を見極めて特性を伸ばしていく教育指導が今後修成に期待される。
 - ・学生の間にとりだけ経験させ、好きな事を見つけるなど建築に興味を持てるかが大切である。
 - ・専門学校は会うたびに挨拶をきっちりしてくれる。
 - ・大量生産よりも個々の特性を活かせるように。
 - ・インターンシップに来た女子学生は、アルバイトで証券会社の電話対応をしていた為、電話対応や接客が非常にうまかった。
 - ・机上の勉強も大切だが、本物を見る（外国の有名な建物を実際に視察する等やホームステイ、商店街の活性化等の取り組みに参加させる）ことが大切である。
 - ・建築設備士など設備分野が今後重要である。
- ②「建築士の資格について？」外部委員からの意見を求めた。
- ・一級建築士の受験制度の見直しが検討されており、それが実施されれば、従来に比べ二級建築士を受験しないで一級建築士をめざす人が増えるような懸念がある。二級建築士は一級建築士へのステップと位置づけ、しっかり学生を指導することが必要である。

- B) 土木・造園グループ・・・・・・司会：堤下 記録：野瀬、明石
小松原、大上、小島、森本、大槻
堤下、中安、明石、野瀬 以上 9 名

- ・見学会等では先生方が説明される以外にも、管理者や設計者から説明を受けるのもよいのではないかと。
- ・建設の仕事を知らない人に何のためにするのか等を伝えるのも学校の使命であると思う。
- ・今後ますます維持管理の時代へと向かっているため、そのことについても考慮する必要があると思います。
- ・相手に思いを伝える手段として、パースやスケッチが少しでも出来るようになってもらえればと思う。

(4) 次回開催日時について

日時：平成31年2月

場所：修成建設専門学校 129教室

内容：平成30年度各学科カリキュラム実施報告
その他

以上(記録・文責：中島良明 釜友知與子)